

学び合い、伝え合うコミュニケーション

～感動を分かち合える心の育成～

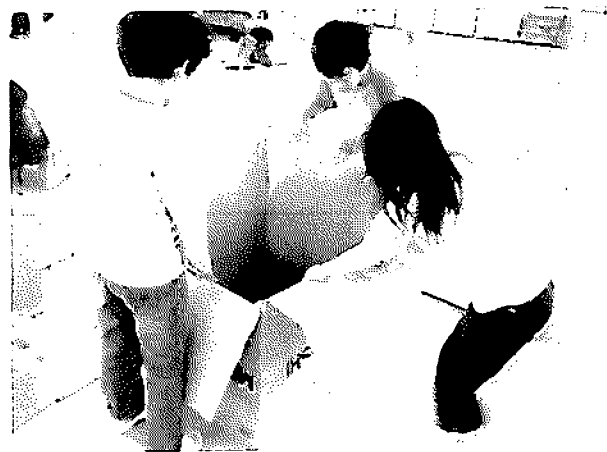
足利市立梁田小学校



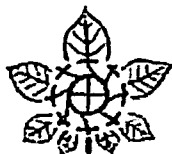
梁田小 の 図工

*本資料は、平成17年11月8日に梁田小学校を会場として行われた栃小教研足利支部図画工作科指導法研究会の資料に加筆訂正をしたものです。

*本資料に掲載されている写真は、すべて梁田小学校が使用許可を得ております。無断転載はできません。



平成17年11月8日（火）



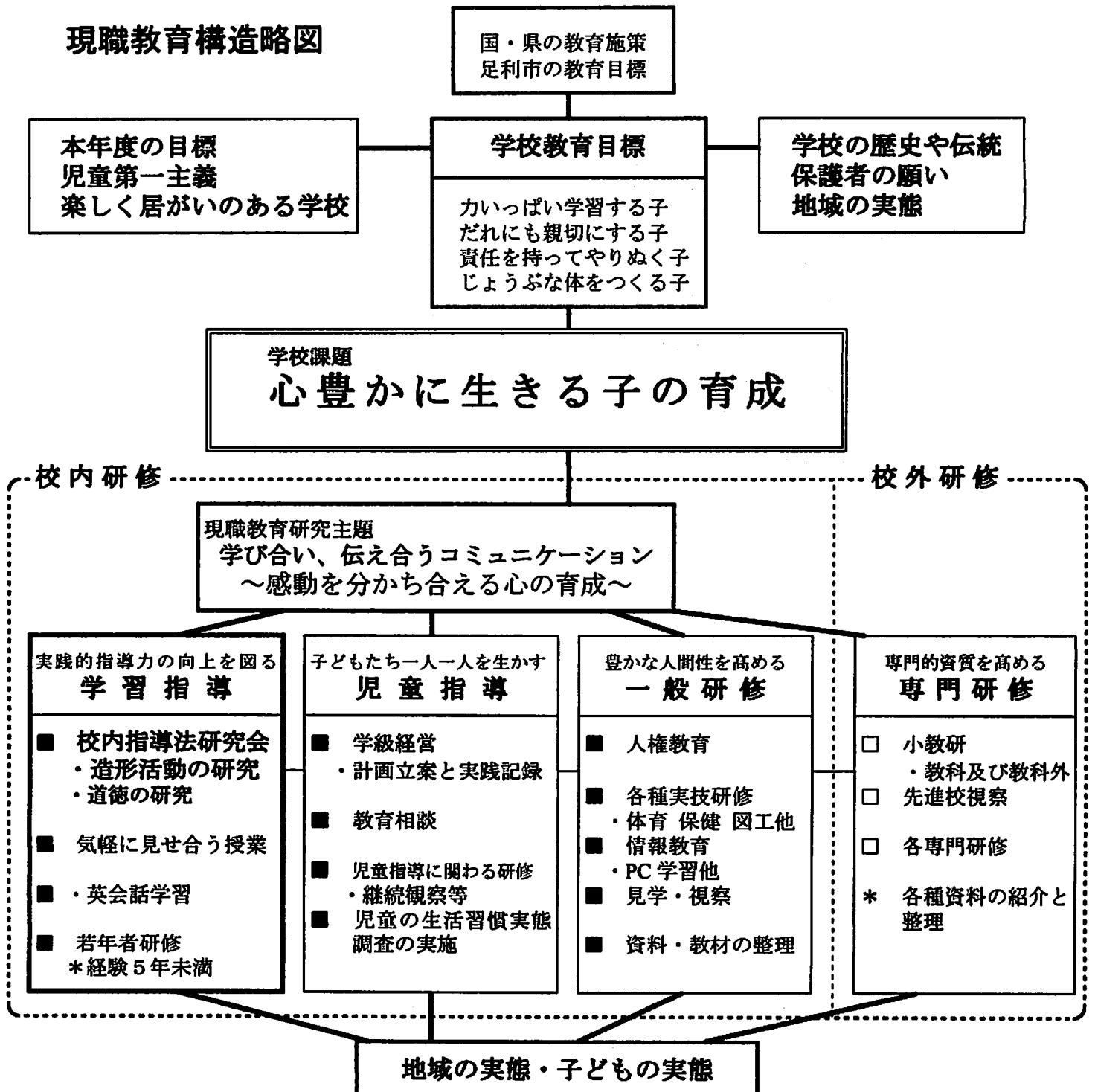
足利市立梁田小学校

1 研究主題について

(1) 現職教育計画全体構想より

梁田小学校は、平成12年度に学校課題を「心豊かに生きる子の育成」と決定し、翌13年度からは、「学び合い、伝え合うコミュニケーション」を現職教育の研究主題と位置づけ、各教科や総合的な学習、さらに児童会活動等を通して、子供たちのコミュニケーション能力の育成に力を入れてきた。

図画工作科指導法研究会会場校の指定を好機として、また、本校児童の実態を全職員で検討した結果、研究サブテーマを「感動を分かち合える心の育成」と決定し、授業の改善や工夫に努めてきた。



(2)研究の仮説として

コミュニケーション能力の育成を追求してきた我々は、図画工作の授業を通して「よいものをよい」「美しいものと美しい」と心で感じ、感動を友達と伝え合うことができる児童を育てたいと考える。

本校の児童は、自分の気持ちを言葉で伝えたり、友達の話に耳を傾けたりすることが苦手であるという実態がある。また、日常の授業において、大勢の前で発表をしたり意見を交換したりする学習では、意欲はあるものの、相手にきちんと自分の考えや意志を伝えられないことが多いことが指摘されてきた。

そこで、本校では、自分の意志を伝え合うコミュニケーションの楽しさや、大切さを児童に理解させるべく各教科や総合的な活動の中で、「コミュニケーション能力の育成」を図る支援を続けてきた。

最近では、調べ学習の内容をきちんと説明したり、的を射た質問やそれに対する返答など「発表力」の向上が見られるようになった。さらに、英会話学習を心待ちにし、友達や教師との会話を楽しむ児童も増えてきている。

図画工作科は、教科の特性から個人で進める造形活動が基本である。図画工作科の中で友達と意見を交換する場面を考えると、まず、造形遊びや共同制作中に自然に発生する児童同士の「相談」があげられる。さらに、鑑賞を目的とした活動での意見交換や、個人で作ったり描いたりした作品をもとに優れている点を話し合う活動が考えられる。

図画工作科を通して、コミュニケーションの力を育てるという本校の研究は、試行錯誤の時期が続いた。しかし、授業を重ねる中で、児童が喜々として造形活動に取り組み、自分の意志を伝え合い、活動の意欲を持ち続けることができるであろういくつかの要素を確認することができた。

①感動のある導入の工夫

②活動環境の工夫

③達成感を持たせる工夫



これら3つの工夫を図画工作科の授業に生かすことによって、研究テーマ「学び合い、伝え合うコミュニケーション～感動を分かち合える心～」にせまりたいと考えた。

2 図工の授業3つの工夫

夫工の創想演習(S)

(1)感動のある導入の工夫

導入の部分では、題目の設定と材料との出会わせ方に着目し、工夫を重ねてみた。具体的な言葉を活動のヒントとして投げかけることにより、児童の意識が造形活動へ向かうことを期待した。

材料との出会いの工夫は、材料の手触りから発想を広げることも一つのねらいとしている。そのため、市販の材料セットは使用していない。



2005.6.1 3年2組「タイヤをつけて出発進行！」

題目の工夫

写真は3年2組6月の授業。

題材名は「タイヤをつけて出発進行！」本時の題目を「タイヤでゴー！」として投げかけたところ、いつの間にか子供たちの合い言葉になり、タイヤを作りながら、また、作品を走らせながらあちらこちらで何度も唱えていた。題目の工夫により活気あふれる活動が展開された。



2005.10.12 4年1組「大きく遊ぼう」

材料との出会わせ方の工夫

活動の意欲を高揚させ、造形活動に期待感を持つことができるように材料との出会わせ方を工夫した。

写真は4年生と主材料になるダンボールとの出会い。ステージの幕が開くと子供たちの目の前にダンボールの山が表れた。思わず拍手をして喜ぶ子供たち。材料の形状が、児童の発想に影響をあたえることを再確認することができた。

(2)活動環境の工夫

低学年の児童が遊んでいるようすを観察すると、遊ぶ「場所」を上手に利用していることが分かる。場所の特徴から遊びを思いついたり、身近にあるものを何かに見立てたりするようすがよく見られる。

造形遊び等においても、環境から発想を広げることが可能ではないかと考えた。また、必要な道具や材料を自ら準備できるように児童の活動環境を工夫してみた。



2004.11.10 1年2組「さわってみたいね だろだろえのぐ」

活動場所の工夫

本校には「空き教室」がない。そのため、屋内の広い活動場所は食堂・体育館に限られてしまう。活動場所の確保のためにスケジュールを細かく調整し確認したりすることも教師の支援の一つと考えられる。また、材料や道具の配置を工夫し、必要なものを自分で選び出させる配慮も行ってきた。

1年生の「だろだろえのぐ」の授業では、のびのびと造形活動に取り組む児童のようすが見られた。



2005.6.1 2年2組「おはよう、どうめいライオンさん」

教師の助言

児童にとって、教師の存在やアドバイスも学習環境の一つと考えられる。図画工作科においては、道具の使い方や作品の作り方を教えるのではなく、活動のヒントを与え、児童の発想を導き出せるような助言が必要となる。

そのため、児童の発想を肯定的にとらえ、共感する姿勢が必要である。

2年生の授業では、一人一人が黙々と作り上げる活動の中でも、教師と児童が作品作りを媒体とした見事なコミュニケーションが生まれていた。

(3)達成感をもたせる工夫

教師や友達からの適切な賞賛や評価は、児童の活動に達成感を持たせるとともに、次の造形活動への意欲にもつながる。また、自他の作品について意見を交換し合うことは、本校の目指すコミュニケーション能力の育成に大きく関わる大切な学習活動である。

図画工作科は、児童にとって友達との違いを安心してアピールできる教科である。それだけに、教師は、一人一人の活動のようすや作品の違いを良さとして評価し、活動意欲の向上に努めなければならない。



2005.6.22 2年1組 「いろんな音がいろやかたちに」

鑑賞の工夫

本校では、図画工作科の授業の中に、自分や友達作品介绍し合ったり、活動を振り返ったりする時間を位置づけてきた。児童が見つけた友達の作品の感想が「きれい。」「すごい。」「じょうず。」にとどまらず、「〇〇のところががんばったと思う。」のように友達の努力を認める発言も見られるようになった。



2005.10.12 1年2組 どうぶつむらのピクニック

評価の工夫

評価は、授業中の教師による観察等による評価や終末の振り返りカード等を使った児童自身の自己評価・他者評価が考えられる。しかし、教師の作品や活動に対する言葉かけや態度が児童にとって一番大きな意味を持つ評価であり、表現活動の自信へにつながるものである。本校は、年間指導計画における図画工作科の評価規準とともにこの点も重視してきてきた。

写真は1年生の授業において、友達の作品とのちがいを認めアイデアを賞賛している場面。

3 研究会運営の工夫

夫工るり式け多事取整(8)

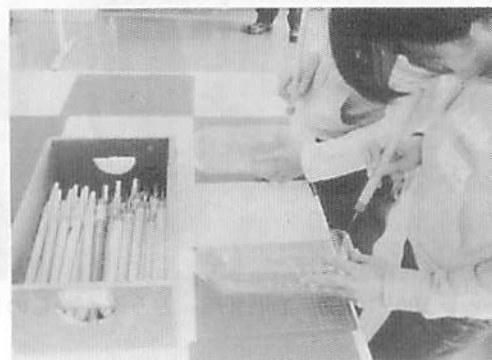
(1) 授業研究2つの形態

本校は授業研究を、「気軽に見せ合う授業」と「校内指導法研究会」の2つで構成した。気軽に見せ合う授業は、低・中・高の各ブロックで企画・運営し、昨年度は教科や活動を限定せず、担任の持ち味を生かした授業が展開され、多彩なアイデアが公開されてきた。本年度に入り、図画工作科の事前研究的色合いが増してきた。

	① 気軽に見せ合う授業	② 校内指導法研究会
目的	担任の持ち味を生かした授業を公開し、指導法の工夫・改善を図る研修	平成 17 年度栃小教研足利支部図画工作部会での授業公開に向けた研究。
授業者	原則として1回以上 *ブロック内で実施期日の調整をする。	現職教育計画による *担当者は4月の現職教育で決定。
教科	図画工作科 道徳 *昨年度は、教科・活動ともに自由	図画工作科 道徳 * 3学期に実施
形態	ブロック研修	ブロック研修 全体研修
参観	参観希望者	全職員
指導案	略案(展開のみ可) 全職員に配布	研究主任より提案された形式を使用 全職員に配布

備考

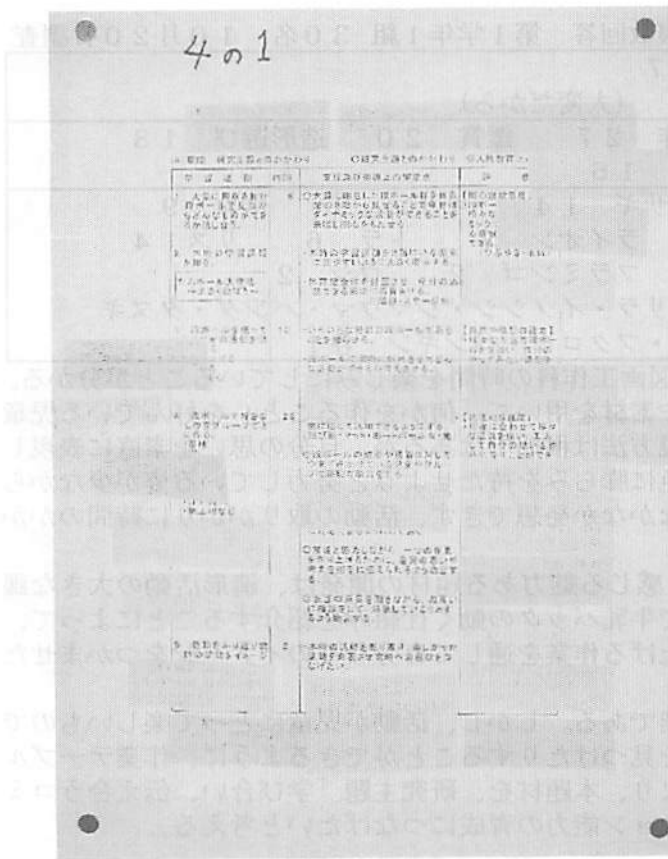
- 気軽に見せ合う授業は、導入・展開・終末の一部だけを公開しても良い。
- 気軽に見せ合う授業は、研究授業のための予備授業として設定しても良い。
*日程・題材はブロックで計画を立てて実施する。
- 校内指導法研究会は、現職教育年間指導計画による。



平成 17 年度の研究授業より

(2) 授業記録の工夫

本校の校内指導法研究会でも、授業後に全員参加の全体会を開いている。全体会での質疑の視点を見極め、さらに次の授業に生かすために、「付箋（ふせん）記録」を始めた。これは、指導案の展開部分を拡大コピーした用紙に、参観者がメモを書いた付箋を貼り付ける記録方法である。気づいたことや感想など、時系列にそった記録ができるため、話し合いのポイントがつかみやすい。また、すべての授業をデジタルビデオカメラやデジタルスチルカメラで撮影し、授業のようすを CD-R に焼き付け、コンピュータ上で、いつでも再生できるようにしている。



*授業中にお気づきになった点を記入して
会場の指導案にお貼りください。

*配付資料には、ここに付箋を貼りました。

付箋紙の利用

付箋が貼られた指導案は、縮小コピーをして、全体会参加者に配布し、全体会での話し合いに生かしている。

本校では、本年度2学期より採用している。付箋の利用により、活発な意見交換が行われるようになった。

2005.10.12 4年生の授業記録

デジタルビデオカメラ・スチルカメラ等の活用

プレゼンテーションの画像（静止画・動画）は、本校職員が撮影、編集したものです。

*詳細については、本校のホームページ
YANADA NET をごらんください。

注) ネット上の画像は、児童のセキュリティを考え
ぼかし等の処理を施してあります。



<http://www.watv.ne.jp/~yanada/> 検索：やなだ

4 公開授業指導案

夫工の編5業對(S)

図画工作科指導案

平成17年11月8日(火) 第5校時

第1学年1組 男子14名 女子16名 計30名

指導者 武藤 美香

場所 食堂

1 題材名 どうぶつむらのピクニック

2 題材設定の理由

ちよっと手を加えるだけで、身近にある牛乳パックから動きのある動物を作り出すことができる。本題材では、牛乳パックのもつ意外性に自分たちの発想を加えることによって、作ること、可能性を広げることの楽しさを体感できることを目指したいと考えた。本題材を扱う前に以下のアンケートを実施した。

図画工作科アンケート (事前調査) 複数回答 第1学年1組 30名 10月20日調査

図工は好きですか。	大好き 22 すき 7 あまり好きじゃない 1 (大変だから)
どんな学習が好きですか。	工作 28 共同制作 27 鑑賞 20 造形遊び 18 絵を描く 17 粘土 16
どんな動物を作りたいですか。	ハムスター 22 ウサギ 14 キリン 9 ネコ 9 イヌ 8 ゾウ 7 ライオン 7 トラ 6 リス 4 サル 3 ワニ 2 フラミンゴ 2 ウシ 2 ヒョウ・サイ・クマ・ゴリラ・イノシシ・シマウマ・パンダ・タヌキ ネズミ・カバ・クジャク・フクロウ・ペンギン 各1

アンケートの結果、本学級では、約9割の児童が図画工作科の時間を楽しみにしていることが分かる。造形活動の中でも、工作や共同制作のように材料や素材を用いて「何かを作ること」を好んでいる児童が多い。これまでの活動の様子を振り返ると、表現方法は稚拙ではあるが、自分の思いを素直に表現したり、作りながらイメージを広げたりして、形や色に膨らみを持たせようと努力している姿が少なからず見られた。しかし、一方では、作りたいものがなかなか発想できず、活動の取りかかりに時間のかかる児童も見受けられた。

低学年の児童が興味を持ち、「作ってみたい」と感じる魅力ある題材の開発は、造形活動の大きな課題である。そこで、本題材では、教師が導入段階で牛乳パックの動く仕組みを紹介することによって、児童の製作意欲を高め、動く仕組みを実際に作り上げる作業を通して自分なりのイメージをつかませたい。

今回の造形活動は、基本的に個人で取り組む作業である。しかし、活動が児童にとって楽しいものであり、意見を交換したり、新たな発想のきっかけを見つけたりすることができるように、作業テーブルを複数の友達と囲ませることにした。このことにより、本題材を、研究主題「学び合い、伝え合うコミュニケーション」が模索する児童のコミュニケーション能力の育成につなげたいと考える。

3. 題材の目標

(1) 【造形への関心・意欲・態度】

牛乳パックを使って、形の変化や動くことの楽しさに関心をもち、取り組もうとする。

(2) 【発想や構想の能力】

牛乳パックを動かしながらイメージを広げて、どのような動物を作るのかを考えることができる。

(3) 【創造的な技能】

動きを生かすように色紙を付けたり、牛乳パックに切り込みを入れたりして、自分の思いに合ったものを作っていくことができる。

(4) 【鑑賞の能力】

自分や友達が工夫したところや、それぞれの作品のもつよさに気づき、鑑賞することができる。



教師からアドバイスを受ける1年生(11/8)

4. 指導計画及び評価計画 (総時間4時間) 本時 1/4 時間

時	ねらい	主な学習活動	教師の支援	評価計画
1 ・ 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳パックの、形の変化や動くことの楽しさに興味関をもつ。(5分) 	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある牛乳パックに、手を加えると動きのある動物ができることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の前で牛乳パックを折り曲げたり、動かしたりしてみることにより、作ってみたいという意欲を高めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 牛乳パックの形の変化や動くことの楽しさに気づき、自分も作ってみたいという意欲をもつことができる。(つぶやき・表情)
2 ・ 3 4	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳パックを動かしながら、イメージを広げることができる。(20分) 牛乳パックの動きから、自分の思いに合ったものを作っていくことができる。(130分) 	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳パックを折り曲げて、動くようにする。 牛乳パックを動かしながら作りたいもののイメージを広げていく。 牛乳パックを動かしながら、自分が一番興味関心の強い部分から作っていく。 作りながらイメージを膨らませ、いろいろなものを付け足していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳パックを自分で数個用意させ、切ったり動かしたりしながら自分のイメージを広げ、作りたいものを決めさせる。 動きを生かすように装飾したり、イメージを膨らませたりしていつている作品を全体に紹介し、よい刺激を与える。 思いついたものを試したり自分で活動の糸口を見つけ進んでいったりしている児童を、大いに賞賛する。 それぞれの工夫を紹介させ、互いの良さを感じ取らせる。 動物どうして何をしているか考えさせ、飾り場所を工夫させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【発想や構想の能力】 牛乳パックを動かしながら、作る動物のイメージをもつことができる。(つぶやき・表情) 【創造的な技能】 動きを生かすように色紙を付けたり牛乳パックに切り込みを入れたりして自分の思いに合ったものを作っていくことができる(作品・活動の様子) 【鑑賞の能力】 進んで友達と関わり合いながら、自分や友達の作品のよさに気づくことができる。(発表・活動の様子)
	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の作品のよさに気づく。(25分) 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いながら、みんなが作った動物で「どうぶつむら」を作る。 		

5. 研究主題とのかかわり

研究主題「学び合い、伝え合うコミュニケーション」及び、サブテーマ～感動を分かち合える心への育成に迫るために、次の工夫を考えた。

(1) 感動のある導入の工夫

○ 題目の工夫

・本時の活動を「うごくよ！わたしの〇〇」と児童に投げかけることで、意欲をもって活動に取り組めるようにしたい。

○ 材料との出会わせ方の工夫

・児童の前で牛乳パックを折り曲げたり、動かしたりすることにより、イメージを広げ「作ってみたい」という意欲を高めるようにしたい。

・基本的に、自分が使う牛乳パックは自分で用意させ、主体的に材料にかかわらせたい。

(2) 活動環境の工夫

○ 活動場所の工夫

・自由にのびのびと活動したり、友達と活動のよさを自然に刺激し合ったりすることができるよう、広い場所である食堂を使用する。

・児童が箱で作った「どうぶつむら」を中央に設置し、今日は、村に動く仲間を増やす活動であることを意識させ楽しみながら取り組ませたい。また動きのある大きな動物であるキリンとカバを授業の最初に村に迎え、活動意欲を高めていきたい。

○ 教師の助言

・児童の発想や工夫を肯定的にとらえ、共感する言葉かけをするとともに、動きを生かすように色紙を付けたり、牛乳パックに切り込みを入れたりしている作品を大いに賞賛し、必要があれば他の児童に紹介していく。

・イメージが湧き上がらない子には、一緒に試したりしながら、自分は動物のどの部分に一番興味・関心強いのかに気づくよう、活動のヒントを与えたい。

(3) 達成感をもたせる工夫

○ 鑑賞の工夫

・工夫している児童の作品を紹介することで、友達の作品のよさに気づかせたり、自分の作品にそのよさを取り入れていくきっかけとさせたい。

・自分の作った動物に名前をつけさせ、作品に愛着をもたせるようにする。

・みんなが作った動物で「どうぶつむら」を作り、完成の喜びや達成感を味わわせたい。

○ 評価の工夫

・自分が工夫したところや友達の作品のよさを発表し合い、次への自信につなげさせていきたい。

6. 本時の指導

(1) 題目 「うごくよ！わたしの〇〇」

(2) ねらい

・牛乳パックを使って、動くことや形の変化の楽しさに関心をもつことができる。

・動きを生かすように色紙を付けたり、牛乳パックに切り込みを入れたりして、自分の思いに合ったものを作っていくことができる。

(3) 準備

〈教師〉… 牛乳パック、色画用紙、色紙

〈児童〉… はさみ、のり、化学接着剤、牛乳パック（一人2・3個）、色紙

(4) 展開 (別紙)

(5) 環境構成の工夫

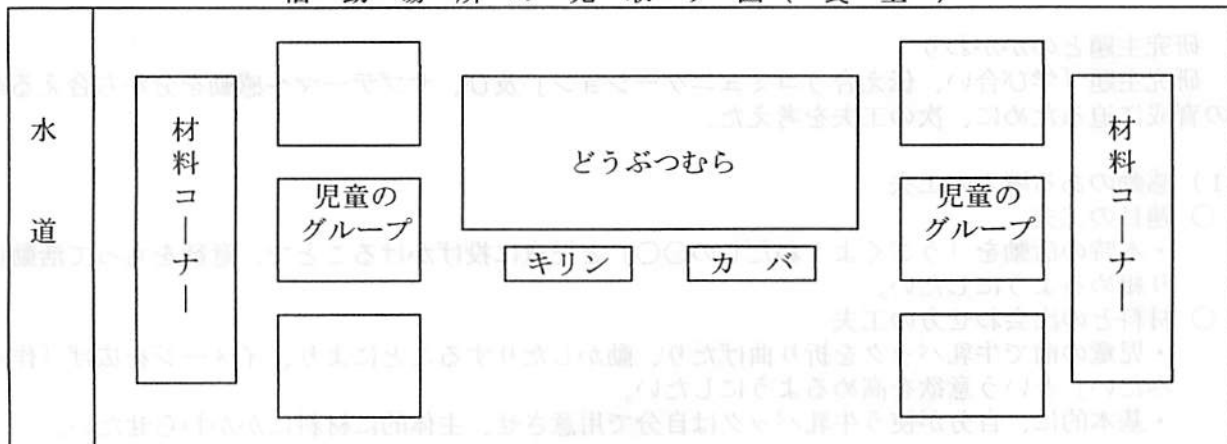
・材料コーナーを用意し、児童が自由に使えるようにしておく。

造形活動に取り組む1年生(11/8)

・児童の作品を展示できる場所を設ける。



活動場所の見取り図(食堂)



(4) 展 開

○研究主題とのかかわり ◎人権教育上の配慮

学 習 活 動	時 間	支 援 及 び 指 導 上 の 留 意 点	評 価
1. 牛乳パックから楽しく動く動物が作れることに気づく。	5	○児童の目の前で牛乳パックを切って折り曲げ、色画用紙などの簡単な飾りをつけて動かしてみることににより児童のイメージを刺激し、「作ってみたい」という気持ちを湧き上がらせたい。	【関心・意欲・態度】 ・牛乳パックの形の変化や動くことの楽しさに気づき、自分も作ってみたいという意欲をもつことができる。 (つぶやき・表情)
2. 本時の学習を確認する。	2	・本時は、牛乳パックの仕組みを動かしながら、自分のイメージを広げて作っていく時間であることを伝える	
うごくよ！ わたしの○○			
3. 牛乳パックを動かし、イメージが固まったら材料を選んで、自分の思いに合ったものを作る。	3 3	<ul style="list-style-type: none"> ・児童からの質問があれば対応する。 ・切り方の指導をする。 ○児童が選びやすいように材料を分類しておく。 ・本時は、色画用紙類で、飾り付けをさせる。 ・材料と材料の接着方法を指導する。 ◎児童の発想や工夫を肯定的にとらえ共感する言葉かけをする。 ・作りながらイメージを膨らませ、いろいろなものを付け足していかせたい。 	【発想や構想の能力】 ・作ってみたい動物を思いつき、材料を選んだり、自分らしい表現を考えたりすることができる。 (つぶやき・活動の様子)
		<p style="text-align: center;">(予想される工夫)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・どのくらいの長さの色画用紙をつけようか。 ・どんな形に切って貼ろうか。 ・たくさん付けてみようかな。 ・牛乳パックに切り込みを入れてみたらどうかな。 ・何色が合うかな。 ・紙を巻いたり、いろんな向きに折ったりしてみてもどうかな。 </div>	【創造的な技能】 ・動きを生かすように色紙を付けたり、牛乳パックに切り込みを入れたりして、自分の思いに合ったものを作っていくことができる。 (作品・活動の様子)
		○イメージが湧き上がらない児童には、一緒に試したり、言葉掛けをしたりしながら、自分は動物のどの部分に一番興味・関心が強いのかに気づくよう、活動のヒントを与える。	
4. 活動を振り返り次時の活動をイメージする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○◎自分が工夫したところや、自分は思いつかなかった工夫について発表させ、それぞれの発想の楽しさや、作品の良さに気づかせたい。 ・参考作品を見せることにより、次の活動へのイメージを膨らませるきっかけとしたい。 	【鑑賞】 ・自分や友達作品の良さや、工夫しているところに気づくことができる。 (発表・つぶやき)

図画工作科指導案

平成17年11月8日(火) 第5校時
 4年2組 男子11名 女子13名 計24名
 指導者 中村 和敏
 場所 体育館

1 題材名 大きく遊ぼう だんボール

2 題材設定の理由

この題材は、児童の生活の中に身近に存在する段ボールという素材を使って、体育館の大きなスペースで、友達と発想したり表し方を考えたりして、共に作り出す喜びを味わうことができる楽しい活動である。

	〈事前調査〉	複数回答
図工は好きですか。	・好き 24人	・そうでもない 0人
使用したことがある材料は何ですか。	・画用紙・色紙・板・新聞紙・ペットボトル・スズランテープ・針金・段ボール・牛乳パック	
使ってみたい材料は何ですか。	・段ボール(18人)・ペットボトル(5人)・画用紙(4人)・その他(5人)	
段ボールで何を作ったことがありますか。	・遊び道具(7人)・トンネル(5人)・箱(5人)・家(2人)・看板(2人)・その他(4人)	
段ボールで作ってみたいものは何ですか。	・家(15人)・基地(9人)・トンネル(9人)・ロボット(4人)・その他(5人)	
どこで作ってみたいですか。	・体育館(18人)・食堂(11人)・図工室(7人)・校庭(7人)・教室(4人)・屋上(1人)	
だれと作りたいですか。	・グループ(20人)・一人一人(4人)	

事前アンケートの結果、本学級の児童は、どの児童も図工が好きと答えている。今まで図工以外の時間でも何かを作る作業を好んで行うことが多かった。ペットボトルや牛乳パック、新聞等を利用して、集会の店の商品や遊び道具を日常的に作ってきた。児童の生活の中で、これらの素材は、手に入りやすく持ち運びもしやすい。一人一人が自由に発想や構想をくり返しながら造形活動に取り組むには、適切な材料であった。それに比べ、段ボールは身近にあるものの、何かを作るとなると一つを広げて看板にしたり、抱えられる大きさをくじ引きの箱に使用するくらいであった。数や大きさが限られ、ペットボトルや新聞のように好きなだけ使うことはなかった。そこで、今までに自分たちが好きなだけ自由に使用したことがない段ボールへの希望が高まっていると考えられた。また、児童の多くが、体育館で何かを作ってみたいと考えていることが分かった。そこで、段ボールを使って、児童が数や大きさ限定されることなく、発想を豊かにし創造的な技能を十分に働かせて、楽しい造形活動ができる場を設定したいと考えた。そのため、児童の希望通り、教室や図工室を使用するより児童が伸び伸びと空間を利用できる場として体育館が適切ではないかとも考えた。十分な数や量の段ボールと、広々とした体育館の中で、体全体の感覚を働かせてダイナミックな作品づくりができると考えている。

活動は個人より少人数のグループ活動とすることで、児童が表現の仕方を考えたり、話し合ったり、共に悩んだりしてお互いの思いを伝え合おうとすることができると考えている。これは、本校の研究主題「学びあい、伝え合うコミュニケーション～感動を分かち合える心～」に迫るものである。自分たちで考えた楽しい造形活動を通して、一人一人が持っている力を十分に働かせることで、自分たちの思いが作品にあらわれ、各自の力が一つになりなり大きな達成感を味わうことができると考えている。

3 題材の目標

(1)【造形への関心意欲態度】

段ボールを使って様々な活動をダイナミックに楽しむことができる。

(2)【発想や構想の能力】

段ボールを組み立てたり、分解したり、つなぎ合わせたり、積み重ねたりと様々な方法で、自分のやってみたい活動を思いつくことができる。

(3)【創造的な技能】

用途に合わせて様々な道具を使い、工夫して自分の思いを作品にあらわすことができる。

(4)【鑑賞の能力】

他のグループの作品の発想の楽しさや作り方のよさを認め合い、充実感を味わうことができる。

4 指導計画及び評価計画(総指導時数3時間 本時1/3)

	ねらい	主な学習活動	教師の支援	評価計画
1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの段ボールに関心を持ち、意欲的に活動に取り組もうとする。 ・段ボールを使って様々な活動を通し自分のやってみたい遊びを考える。 ・グループごとに段ボールを使って楽しく活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大量に用意された段ボールを見ながら話し合う。 ・いろいろな種類の段ボールがあることを知る。(5分) ・段ボールでいろいろ試してみる。 <ul style="list-style-type: none"> ・積み上げる ・並べる ・切り開くなど (10分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大量に用意した段ボール群を見せて今日はダイナミックな活動ができることを示唆し、関心をもたせる。 ・段ボールに実際に触れさせて、いろいろな活動を試させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールを使って様々な活動をダイナミックに楽しもうとする意欲をもつことができる。(つぶやき・表情)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・用途に合わせて様々な道具を使い、工夫して自分の思いを作品に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボールで好きなものをグループごとにつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・基地 ・家 ・お城 ・ロボット ・公園 ・迷路など ・トンネル (55分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館の階段やその他の道具も必要に応じて活用できるようにする。 ・段ボールの切断や接着に、つまづいてる児童やグループには適切な助言をする ・道具コーナーを設け必要と思われる道具を用意しておく。 ・救急コーナーを設け、緊急のけがにも対応できるようにしておく。 ・できあがった作品をみんなで見合ったり遊んだりして自分たちの作品や他のグループの作品のよさを認め合うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【発想や構想の能力】 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な方法で段ボールを扱い、自分のやってみたい活動を考えることができる。(つぶやき・活動の様子) 【創造的な技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・用途に合わせて様々な道具を使い、工夫して自分の思いを作品に表すことができる。(活動の様子)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの作品や他のグループの作品のよさに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できあがった作品をお互いに見合ったり、遊んでみたりしてそれぞれのよさを味わう。 ・自分たちが力を合わせて作った作品と記念写真を取る(15分) ・グループどうして活動の跡をお互いに認め合いそれぞれのよさを認め合う。(5分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで力を合わせて作った作品を写真に残すことで次の活動への意欲を高めるとともに大切な思い出の一つにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【鑑賞の能力】 <ul style="list-style-type: none"> ・進んで友達と関わり合いながら、自分たちの作品や他のグループの作品のよさに気づくことができる。(発表・表情)
	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年の児童を招待し、できあがった作品で共に遊ぶことで作品を作った喜びを分かち合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年の児童を招待し、できあがった作品と一緒に遊び交流する。(45分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年の児童と自分たちで作った作品で遊ぶことで作品を作った充実感を味わわせる。 	

5 研究主題との関わり

研究主題「学びあい伝え合うコミュニケーション」～感動を分かち合える心への育成に迫るために次の工夫を考えた。

(1) 感動のある導入の工夫

○題目の設定

・本時の活動を「だんボール大作戦 ～大きく遊ぼう～」とした。「大作戦」という言葉を使うことで児童が新鮮な感覚をもち、大きなものを扱うという活動への意欲を高めるとともに、課題を垂れ幕で提示することでさらに本時の課題をダイナミックに印象づけたいと考えた。

○材料との出会わせ方の工夫

・普段見たことがない大量の段ボールを、その数や量を瞬時に実感するために、床面からではなく、体育館のステージから見せることにした。驚きと感動が沸き、児童の活動へのイメージや発想を膨らむことを期待したいと考えた。

(2) 活動環境の工夫

○活動場所の工夫

・教室や図工室では味わえない大きな空間でのびのびと活動させるために、体育館を活動場所とした。広々とした空間を自由に使える充実感や満足感を持たせ、活動に広がりを持たせたいと考える。

○教師の助言

・児童の発想や工夫を肯定的にとらえ、共感する言葉かけをするとともに、必要があればそのよさを他のグループにも紹介していくようにしたい。
・イメージがまとまらないグループには、児童の思いを聞き取り、ともに活動しながら助言していきたい。

(3) 達成感をもたせる工夫

○鑑賞の工夫

・試したり遊んだりしながら他のグループのよいところを認め合うようにさせるとともに自分たちの作品のよさも味わわせるようにしたい。
・一人一人が力を合わせて一つの作品を仕上げる達成感を味わわせるようにしたい。

○評価の工夫

・自分のがんばったところや友達のよさを発表し合い、次の自信につなげていきたい。

6 本時の指導

(1) 題目 「だんボール大作戦 大きく遊ぼう」

(2) ねらい

- ・段ボールを使って様々な活動をダイナミックに楽しむことができる。
- ・様々な方法で段ボールを使ってやってみたい活動を思いつくことができる。
- ・用途に合わせて様々な道具を使い、工夫して自分の思いを作品に表すことができる。

(3) 準備

教師

段ボール 段ボールカッター ガムテープ ポスターカラー ローラー
ビニールテープ ボンド 色画用紙 新聞紙 両面テープ カッター用の台

児童

絵の具 はさみ のり



体育館に設けられた材料コーナー



課題をつかむ4年生(写真は当日のようすです)

学 習 活 動	時間	支援及び指導上の留意点	評 価
1 大量に用意された段ボールを見て学習する意欲をもつ。 2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> だんボール大作戦 ～大きく遊ぼう～ </div>	5	○大量に用意した段ボール群を体育館のステージから見せることで今日はダイナミックな活動ができることを示唆し活動の意欲を高める。 ・本時の学習課題を児童に見やすいように大きく掲示する。	【関心意欲態度】 ・段ボールを使って様々な活動をダイナミックに楽しもうとする意欲をもつことができる。 (つぶやき・表情)
3 段ボールを使っていくつかの活動を試してみる。 ・積み上げる ・並べる	10	・段ボールに実際に触れさせてどんな活動ができるか考えさせる。 ・体育館全体を見回させ、今日の活動できる環境に着目させる。 (階段・ステージ他)	【発想や構想の能力】 ・様々な方法で段ボールをを扱い、自分のやってみたい活動を思いつくことができる (つぶやき・活動の様子)
4 段ボールで好きなものをグループごとに作る。 ・基地 ・家 ・お城 ・ロボット ・公園 ・迷路 ・トンネルなど	28	・体育館の階段やその他の道具も必要に応じて活用できるようにする。 (跳び箱・マット・ポートボール台・他) ◎段ボールの切断や接着に、つまづいている児童やグループに適切な助言をする。 ・道具コーナーを設け、必要と思われる道具を用意しておく。 ・救急コーナーを設け、緊急のけがに対応できるようにしておく。 ○友達と協力しながら、一つの作品を作り上げるために、自分の思いや考えを相手に伝えられるよう助言する。 ◎友達の意見を聞きながら、お互いに相談をして、解決していこうとするよう助言する。	【創造的な技能】 ・用途に合わせて様々な道具を使い、工夫して自分の思いを作品に表すことができる。 (活動の様子)
5 活動をふり返り次時の活動をイメージする。	2	・本時の活動を振り返り、楽しかった活動を発表させ、次時への意欲をつなげたい。	

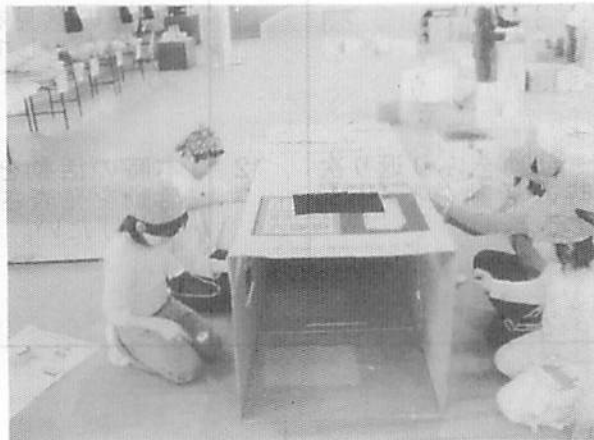
(5) 環境構成の工夫

- ・体育館の全面にシートを敷き、児童が床面を気にすることなく自由に活動できるようにする。
- ・材料コーナーや道具コーナーを設置し、児童が分かりやすく使えるようにしておく

活動場所の見取り図(体育館)



造形活動に取り組む子供たち
トンネルの看板を作っています。



協力して作業を進めるグループ
*写真は、公開授業のようすです。

図画工作科指導案

平成17年11月8日(火) 第5校時
第6学年1組 男子14名 女子12名 計26名
指導者 中村 訓子
場所 図工室

1. 題材名 物語が動き出す!

2. 題材設定の理由

本題材は、クランクの動く仕組みをつかんで、楽しいおもちゃをつくる活動である。仕組みの数や位置などを工夫し、動かしてみたいものに合うようにイメージを広げたり調整したりすることで、創造的な工作の能力を養いたいと考え設定した。

本題材を指導する前に以下のアンケートを実施し、児童の図工に対する意識を調べてみた。

事前調査 (複数回答)

図工が好きですか。	好き 19名	嫌い 7名
どんな学習が好きですか	絵に表す 9人	版画 3人
	立体に表す 8人	つくりたいものをつくる 17人
	鑑賞 6人	

児童の実態から、「つくりたいものをつくる」ことが好きであるので、本題材は興味を持って取り組むと考えられる。しかし、ペンチを使用したことのない児童が多いので、ペンチの使い方を本時の前に1時間、十分指導することによって、自分のつくりたいものに挑戦できるように支援をしていきたい。

そこで、導入では「アップ・ダウン」という言葉から、文字から受ける語感や音感からイメージを広げたり、自分の知っている語彙の中から類似しているものとオーバーラップさせながら連想したりと、キーワードに着目して発想させたい。

また、教師があらかじめつくっておいた参考作品を提示するが、最初はブラックボックス形式で提示することで、どのような仕組みになっているのかを想像させる。次に、ペットボトルで中身が透きとおる、仕組みがわかるように提示し、関心意欲を持続させたい。

6年生は、1年生への朝読書の読み聞かせを行っている。「物語が動き出す」という題材から、作り上げた作品を朝読書の時間を使って1年生に作品を紹介する目標をたて、コミュニケーションをさらに深めさせたい。実際の活動では、物語を題材にした作品を2人組で組み立てたり、グループで組み立てたりするなどの協力・発展も考えられる。各時間ごとに工夫している児童を紹介することで、友達の作り方の良いところを見習ったり、刺激を受けたりしながら共に学び合い、自分らしい表現を追求し、完成の喜びを味わわせたい。

3. 題材の目標

(1) 【造形への関心・意欲・態度】

簡単な仕組みが生み出す動きのイメージを楽しんだり、動く仕組みに関心を高めたりしてつくりたいものを工夫してつくる。

(2) 【発想や構想の能力】

動きから想像を広げ、つくりたいものを考える。動かしたいように仕組みを選ぶなどしてつくる。

(3) 【創造的な技能】

つくりたいものに合った材料や用具を選んでつくる。

(4) 【鑑賞の能力】

制作の意図や特徴をとらえて見る。



造形活動に取り組む6年生(11/8)

4. 指導計画及び評価計画 (総時間6時間)

本時2/6 時間

時	ねらい	主な学習活動	教師の支援	評価計画
1	・ラジオペンチを使って、針金を曲げたり切ったりして、クランクをつくる。	・ラジオペンチの使い方を覚え、針金を曲げたり切ったりして「くねくね針金」(クランク)をつくる。	・「くねくね針金」(クランク)ができない児童については、ヒントカードを使ってスムーズにできるようにする。	【創造的な技能】 ・ラジオペンチを使って、クランクができる。 (活動の様子・作品)
2	・クランクの動く仕組みに興味・関心を持ち、想像を広げる。 (15分)	・「アップ・ダウン」という言葉から、イメージをふくらます。 ・クランクの仕組みを使ったおもちゃのおもしろさに気づく。	・ブラックボックス形式のおもちゃを見せることで、どうやって動くのか想像を広げさせる ・ペットボトルを使ったおもちゃを見せることで、仕組みを理解させ興味関心を持たせる。 ・ペットボトルの仕組みができない児童には、ヒントカードを使ってスムーズにできるようにする。 ・児童全員の仕組みが確実に動くかチェックしておく。 ・児童の発想を全体に紹介し、いろいろな工夫ができることを知らせる。	【関心・意欲・態度】 ・クランクの動く仕組みに興味・関心を持つことができる。 (つぶやき・発表・表情)
本時	・クランクの動きの特徴から発想したことをもとに、思いを実現するための仕組みをつくる。 (30分)	・ストローを使って揺れ棒を支える。 ・ペットボトルを利用してクランクの仕組みを入れて回す。 ・仕組みの動きを確かめながら、つくるもののイメージを持つ。	・共有の補助材料を準備しておき、発想の広がりに応えられるようにする。 ・揺れ棒をジョイントすることで、仕組みの改造ができることを知らせる。	【発想や構想の能力】 ・仕組みの動きを確かめながら、つくるもののイメージを持つことができる。 (つぶやき・観察発表・作品)
3 4 5	・動きを調整しながら思いを広げおもちゃをつくる。 (180分)	・自分で用意した材料や身近な材料を使って、動きに合ったものを工夫してつくる。 ・作りながら仕組みを追加して組み合わせ、楽しんでつくる。	・共有の補助材料を準備しておき、発想の広がりに応えられるようにする。 ・揺れ棒をジョイントすることで、仕組みの改造ができることを知らせる。	【創造的な技能】 ・クランクの仕組みを理解しながら、表現活動を発展させ、自分のつくりたいおもちゃをつくる。 (活動の様子・作品)
6	・自分の作品や友達の作品の良さを認め合う。 (45分)	・友達と見せ合いながらお互いの良さを認め合い、楽しむ。	・工夫したところや良いと思うところがはっきりするように、作品メモをつくって発表できるようにする。	【鑑賞】 ・自分の作品や友達の作品の良さを認め合うことができる。 (発表・カード)

5. 研究主題とのかかわり

研究主題「学び合い、伝え合うコミュニケーション」及び、サブテーマ～感動を分かち合える心～の育成に迫るために、次の工夫を考えた。

(1) 感動のある導入の工夫

○ 題目の工夫

・本時の活動を「アップ・ダウン ○○が動き出す」と動作化して投げかけることで、児童に意欲を持って活動に取り組ませたい。

○ 材料との出会わせ方の工夫

・イメージがふくらむように、最初はブラックボックス形式のおもちゃを提示し、どのように動くのが見えないことで興味・関心を持って考えられるようにする。

・透きとおったペットボトルのおもちゃを次に提示し、クランクの仕組みを明らかにすることで、興味を持続させたい。

(2) 環境構成の工夫

○活動場所の工夫

- ・広く作業活動ができるように、図工室を使う。
- ・材料コーナーには、十分な針金やストローを設置しておく。
- ・すぐに触れて確かめられるように、また試し操作ができるように各班にサンプルを置く。

○教師の助言

- ・児童の発想や工夫を肯定的にとらえ、共感する言葉かけをする。
- ・イメージがわからない子や取りかかれないでいる児童には、一緒に試したり、ヒントカードを使用したりして活動しやすいように心がける。

(3) 達成感をもたせる工夫

○鑑賞の工夫

- ・工夫している児童の作品を適宜紹介することで、友達のよいところを見習ったり、さらに工夫させたりすることで感動を共有していきたい。
- ・自分の作品のイメージにあった題をつけさせ、鑑賞会を開きたい。
- ・朝読書の時間に紹介することで、1年生とのコミュニケーションも深めていきたい。

○評価の工夫

- ・自分が工夫したところや友達のよさを発表させ、次の自信につなげていきたい。

6. 本時の指導

(1) 題 目 「アップ・ダウン ○○が動き出す！」

(2) ねらい

- ・クランクの動く仕組みに興味・関心を持ち、想像を広げる。
- ・クランクの動きの特徴から発想したことをもとに、思いを実現するための仕組みをつくる。

(3) 準 備

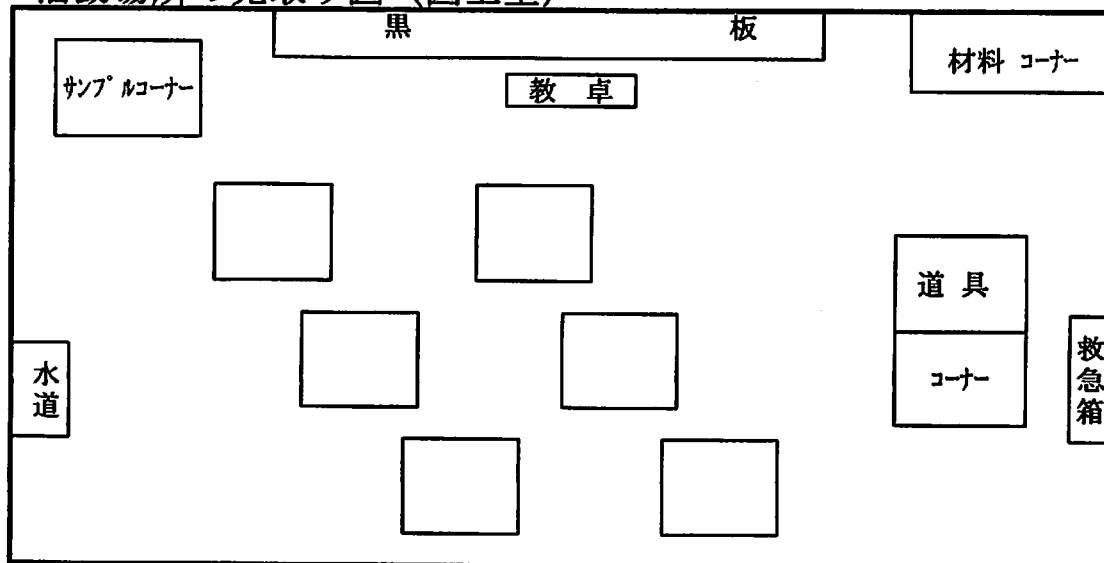
- 〈教師〉… 針金、ストロー、きり、ペンチ、リサイクルばさみ、ペットボトル、色画用紙、カッターマット、ビニールテープ、両面テープ、ラジカセ（テープ）
- 〈児童〉… はさみ、のり、セロテープ、色紙

(4) 展 開 （別紙）

(5) 環境構成の工夫

- ・材料コーナーを用意し、児童が自由に使えるようにしておく。
- ・道具コーナーには、それぞれの用具の使い方を掲示しておく。
- ・安全に配慮し、救急箱を用意しておく。
- ・サンプルコーナーを設置し、具体的に手にとってわかるようにしておく。
- ・本題材に必要なものを整理する。

活動場所の見取り図（図工室）



学 習 活 動	時間	支援及び指導上の留意点	評 価
1. 「アップ・ダウン」という言葉から、イメージをふくらませます。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「アップ・ダウン」というカードを提示して、直感したものを自由に話し合う。 ・必ずしも文字通りの「上下動」するものばかりでなく、振り子のような動きでも認めるようにする。 	【関心・意欲・態度】 ・クランクの動く仕組みに興味・関心を持つことができる。 (つぶやき・発表・表情)
2. クランクの仕組みを使ったおもちゃのおもしろさに気づく。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラックボックス形式のおもちゃを見せることで、上下動の仕組みの秘密を考えさせる。 ○透きとおったペットボトルを使ったおもちゃを見せることで、クランクの仕組みを明らかにし、興味を持続させる。 	
3. 本時の学習を確認する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は、クランク部分の仕組みをつくることであることを確認する。 ○仕組みのサンプルを用意して動かし、教師の参考作品を取り付けてみたりしながら、動くものの楽しさや制作に興味を高める。 	【発想や構想の能力】 ・仕組みの動きを確かめながら、つくるもののイメージを持つことができる。 (つぶやき・観察発表・作品)
「アップ・ダウン」 ○○が動き出す！」			
4. 選んだ材料を使ってクランク部分の仕組みをつくる。	25	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自由に選べるように材料コーナーに分類して用意しておく。 ◎ペットボトルの仕組みが作れない児童には、ヒントカードを用意して、活動しやすいようにしておく。そして、いつでも触れて確かめられるように、また、クランクの試し操作ができるように、各グループにサンプルを置いておく。 	
5. クランク部分ができたら、取り付けるおもちゃを工夫する。		<ul style="list-style-type: none"> ・造形カードに、「アップ・ダウン」という言葉からの連想や初発のイメージから、また、クランクを動かして考えられるおもちゃの題名と絵を描いてから、作業に取り組ませる。 	
6. 自分の作品や友達の良いところを見つけ、発表する。	8	<ul style="list-style-type: none"> ○◎自分や友達の思いや工夫の良さ、作品の良さを認めることができる。 	



造形活動に取り組む6年生。



*写真は公開授業の様子です。

5 研究の成果と今後の課題

平成 17 年度指導法研究会会場校の指定を受け、我々の研究は「図画工作科」にその主軸を置くことになった。校内指導法研究会を重ね、現在の図画工作科の特性や基本理念を全職員で理解するところから研究をスタートした。

本日公開させていただいた授業は、本校なりの図画工作科の解釈であり、実践の集大成である。そのため、本校の指導案がそのまま他校で通用するとは限らない。しかしながら、参加された先生方にとって、現行の図画工作科やコミュニケーションの在り方を見つめ直す上で一つの「ヒント」となれば幸いである。

(1) 成果として

①真剣に、そして楽しそうに取り組む児童

これは、3つの工夫により授業が改善されたことを表しているものと思われる。特に「感動のある導入の工夫」により児童の活動意欲を高め、持続させることができた。また、活動環境の工夫により、のびのびと表現しようとする意欲が感じられるようになった。豊富な材料や広い活動場所、さらに、材料や道具などの効果的な配置が功を奏した。

②友達の意見と自分の意見との調和

グループで実施した造形遊びでは、友達の意見を尊重しながら自分のアイデアを作品に生かそうとする姿が多く見られた。これは、児童が必要に応じて友達と相談をしたため、意志の伝達がうまくいったものと考えられる。また、友達と作品を見せ合う活動では、友達の作品のよいところを積極的に見つけ出そうとする態度が見られるようになった。

(2) 今後の課題として

①活動場所と材料の確保と管理

本校の図画工作科の授業は主に教室・図工室・食堂・体育館で行われている。今後は、さらに広い環境を求めて活発な野外活動も予想される。また、材料を豊富に確保するために、児童の家庭のみならず地域に協力を呼びかける必要もある。

図画工作科のさらなる発展を考えた場合、活動場所と材料の確保や管理が重要な課題となるであろう。

校内の活動環境を整え、年間を見通した材料の調達計画や管理方法を再検討する必要はある。

②さらなるコミュニケーション

平成 16 年度より、本校なりのアプローチで図画工作科におけるコミュニケーション能力の育成を考えてきた。今後は、我々が探求するコミュニケーションの内容や支援方法を、児童の発達段階に照らし合わせながら明確にする必要がある。

ステーション

梁田現職
通信教育

指導法研究会大成功！

喜びに沸く梁田小職員！

平成十七年度栃小教研足利支部図画工作科の発表お疲れ様でした。今回の現職教育通信「ステーション」は、発行者の気まぐれで、新聞形式でお届けいたします。



どうぶつむらのピクニック(1年生)

1年生の「どうぶつむらのピクニック」4年生の「大きな遊ぼう」3つの授業は、各ブロックのアイデアや教材観・児童観が表れた秀逸な授業だったと考えます。ぜひ、今回の研究会で学んだ「図画工作科」の楽しさを、今後子供たちといっしょに感じていただければ幸いです。なお、十一月三十日に

予定していた研究のまとめは、特別支援教育に関わるピデオの鑑賞会に変更させていただきます。研究のまとめについては、後日ステーション上でアンケートを実施し、ブロックで解答していただきます。



アップ ダウン 6年生

付箋のメモから

拡大指導案に寄せられた感想(抜粋)

■一年生の授業について
教材提示の仕方がいいねい
でわかりやすく子供たちの意

■四年生のPC
ホームページ作成ソフトに
よる「宿泊学習」のページに
一枚、二枚完成させて二学
期は終了。その他ドリル等。



こんな感じでいかが？

十一月下旬から終業式までのコンピュータ学習について提案します。学芸会に続いて、習熟度別学習も視野に入れて授業を進めなければなりません。係として、各学年のコンピュータ学習の内容を次のように考えてみました。参考にしてください。

■一年生のPC
現在取り組んでいる電子紙
■三年生のPC
キーボード練習ソフトとキーボード指定した教科のドリルソフトもしくはホームページ

■五・六年生のPC
自分のペースで、ホームページ作成。高学年の場合、年間を通して活動なので、あわ

全員参加のわくわく児童劇シナリオの著者が語る秘訣！
たかが学芸会、されど学芸会！
子供たちが大きなステージで思い切り演技・演奏ができる学芸会が本校に残っていることはとても素晴らしいことだと考えています。ぜひ、観客の皆様との「大きなコミュニケーション」を体験させてください。以下、私が日頃感じている指導のポイントです。

学芸会！

3つのコツ

■台詞は大きくゆっくり、体育館の後ろの壁にぶつける感じで。必要以上に客席におしりを向けられないようにしましょう。
■友達の演技をできるだけ見せる！
演技をしないときは、舞台袖にいないでフロアで友達のが演技を見せる。先生がほめれば「なるほど」となる。
■間の取り方を指導する。これは子供には難しいので台詞を言うタイミングを教える。「お試しあれ！」

欲をかきたてていた。先生の子供への温かい語りかけが一人ひとりの目配りや一人ひとりの確かな指示がありすばらしい。つかみはOK先生のパフォーマンスで(鳥は)「どうやって動くの？」とみんなの気持ちを集めた。リサイクルBOXがいいと思いました。切にしているのに感心しました。四年生の授業について
材料との出会わせ方ひとつで、材料がすばらしくかっただけで、表情がすばらしくかっただけです。子供たちの説明がなすすばらしい。切開くなど基本的なやり方を最初にお

■六年生の授業について
各班ごとに見本があったので、よく見比べて作っていました。クランクは、「図工」の中でも、もっとも難しい教材です。一生懸命に取り組んだ先生方と子供たちに心から拍手を送ります。授業も見事なものでした。

編集後記
新聞作りは、実は楽しいものなのです。作り方の基本さえ押さえれば、だれでも簡単に作れます。

あとがき

私たち梁田小学校職員は、学校教育目標を具現化するために、学校課題を「自ら学び、自ら考え、心豊かに生きる子の育成」と設定し、本年度は図画工作科を中心とした指導法研究実践してまいりました。

指導法を工夫することによって、目を輝かせて造形活動に没頭する児童の姿に感動し、作り上げることの楽しさ・大切さを改めて認識いたしました。本年度の実践を土台に、来年度もさらなる研修に努め、今後も梁田小学校の児童のために、そして地域社会のために、また、教職員としての自己改革のために研鑽を続けたいと考えております。

簡単な研究記録ではございますが、今後とも御指導、御鞭撻のほど、よろしく御願いたします。

足利市立梁田小学校 職員一同

■指導助言者

足利市教育委員会学校教育課指導主事 井上 一先生
足利市教育委員会教科指導員 長竹 澄子先生
埼玉県さいたま市立河合小学校 久田 富士子先生

■研究同人

校長	石井 信雄	4年1組	福島 恵子	心の教育相談員	佐藤 信子
教頭	澤田 シゲ	4年2組	中村 和敏	英会話指導員	クリス ターナー
教務主任	枝 功	5年1組	及川 裕美	英会話協力員	井上ミラディ
学習指導主任	福田 哲男	5年2組	山田 昇勇		
1年1組	武藤 美香	6年1組	中村 訓子	平成16年度	
1年2組	國井 史江	6年2組	長島 博	現名草小学校	恩田 陽子
2年1組	田中 洋子	養護教諭	山崎 英子	現けやき小学校	高橋 和代
2年2組	高井 芳江	事務長	青木 弘子	*産休	吉成 智代
3年1組	渡辺 幸子	事務	島田 有賀		山口 裕美
3年2組	前橋多佳子	技能員	比護 秀昭		塩沢 桃代

平成17年度栃小教研足利支部 図画工作科指導法研究会 資料・指導案 「梁田小の図工」

発行 足利市立梁田小学校

発行者 石井 信雄

編集 福田 哲男

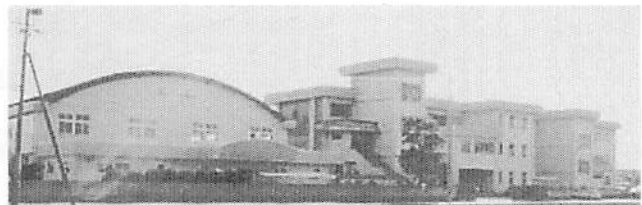
発行日 平成17年11月8日

所在地 〒326-0331 栃木県足利市福富町392-2

TEL 0284-71-0242 FAX 0284-71-0351

E-mail yanada@watv.ne.jp

Home page www.watv.ne.jp/~yanada/



図画工作科では、表現や鑑賞の活動を通して、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を育て、豊かな情操を養うことを目標としています。そのためには、子供たちが楽しく造形活動にかかわり、一人一人のよさや可能性として内在している造形活動の基礎的な資質や能力を一層働かせ、伸ばし、高めることが重要です。

梁田小学校では、小教研図画工作科指導法研究会の会場校として、「学び合い、伝え合うコミュニケーション～感動を分かち合える心の育成～」を研究テーマに掲げ、現職教育の中で2年間の実践研究に取り組みました。

研究の実際では、「感動のある導入の工夫」「活動環境の工夫」「達成感をもたせる工夫」を研究内容として、学校間協同推進による研究授業や校内での気軽に見せ合う授業などを通して、課題解決に迫ろうとしています。

題材や素材の特性について理解するとともに、子供の実態をきめ細かく把握し、学年やブロックの先生方が協力して、子供たちの学習活動を想定しながら熱心に教材研究を行っています。学習過程に様々な工夫を組み込むことによって、子供たちはつくりだす喜びを味わい、一層意欲的に造形活動に取り組めるようになっていきます。

梁田小学校の図画工作科の研究は、子供たちが自ら考え自ら学ぼうとする意欲や友達と協力して取り組もうとする態度を養い、創造活動の基礎的な能力を確実に育てる貴重な実践でありますので、研究成果を各学校の学習指導改善に生かされますよう期待いたします。